

今年の冬はインフルエンザに気をつけましょう！

インフルエンザは毎年冬季に流行する呼吸器感染症です。南半球で流行したインフルエンザウイルスの亜型は、北半球の冬季に流行する可能性があります。そのため、南半球でのインフルエンザの流行状況を把握することは重要です。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行し始めた 2020/2021 年シーズン以降、世界的にインフルエンザの流行は抑えられましたが、本年は、南半球のオーストラリアでのインフルエンザ流行が報告されました。

過去 2 年間に流行せず免疫を持つ人が減ったことや、新型コロナウイルス対策が緩和されたためと推測されています。日本でもツインデミックの状況で、インフルエンザの罹患患者の増加が起こる可能性があります。

ツインデミックとは、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行した年の冬に、インフルエンザも同時に発生して、対を成した(twin)パンデミック(pandemic)が起こる可能性を懸念して作られた単語です。英語では次のように定義されています。an epidemic or pandemic of two separate diseases occurring at the same time. 個体レベルでは、重複感染、混合感染になりますが、ツインデミック流行のグラフが近接してピークを示すイメージです。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスへの感染で起きる急性呼吸器疾患で、感染者の咳やくしゃみによる飛沫などでうつり、38 度以上の発熱や頭痛、関節痛、全身倦怠感などの症状が出ます。日本では例年、推計 1000 万～1500 万人程度の患者が出ていますが、この 2 年間は行動制限やテレワークの普及で流行しませんでした。新型コロナウイルスのオミクロン株の致死率は 0.13% (今年 2 月時点) ほどとみられますが、インフルエンザは 0.006～0.09% と推計されています。今冬の日本でツインデミックが発生すれば、多くの人が発熱のために、受診し、医療が逼迫する可能性があります。自治体などは今から患者受け入れ体制の整備に取り組むべきとの意見もあります。

インフル予防策としても、手洗いや屋内でのマスク着用などの継続は必須です。特に 2 歳未満の小児や高齢者、基礎疾患がある人らは重症化予防のため、インフルエンザのワクチン接種が強く推奨されます。